



もくじ

- 1P
  - ・コミュニティソーシャルワーカーの今後
  - ・熱中症に注意!
  - ・委員会の構成が変わりました
  - ・私の本棚「書評：未完の憲法」
- 2P
  - ・京陽フリーマーケット



## 京陽フリーマーケット

5回目となるフリーマーケットが、6月1日（日）、京陽小学校校庭を会場に行われました。今年の出店はおよそ50。当日は、東京の最高気温 33 度と今年一番の暑さとなりましたが、店舗数も多く、例年以上の盛り上がりを見せていました。その中には、京陽小学校保護者をつくるボランティア団体・けいようサポーターズが初目見え。小田原から直送された名産の干物を販売していましたが、人気で完売となったようです。私は、大好物のみりん干しを迷わず GET! 皆さん、お疲れさまでした!

## 深田恭子演ずる

### コミュニティソーシャルワーカー (CSW) の今後

NHKドラマ「サイレント・プア」が6月3日最終回を迎えました。ゴミ屋敷、アルコール依存症の父と寝たきりの母、引きこもりの息子の家族、ケガで職を失い社会からこぼれていく壮年などの姿が描かれ、深キョンはCSWとして寄り添い、解決方法を見出そうともがいていました。一方、このドラマは、法律や制度は生活に困難を抱える全ての人を守るわけではないことを、如実に語ることもなりました。

CSWは、このような制度のはざままで苦しむ人々に対し、町会などの地域と行政・機関を結びつけながら地域での福祉の力を向上させ、新たな支え合いの仕組みづくりを前進させる役割を担うものとして登場しました。

豊島区では、平成21年度からCSWを配置しており、先日調査に行ってきました。「配置したので、どうぞ相談に来てください」とありがちな対応ではなく、

豊島区のCSWさん達は、町会や住民、地域関係団体に足を運び、共に話し合い、課題を共有し、ニーズを掘り起こしておられ、“本気度”を強く感じました。仕事を進める上で最も重要なのが、予算と信頼とネットワークです。予算を確保するために区財政当局と、信頼とネットワークを築くために地域へ団体へと、粘り強く語り、新たな支え合いの必要性を訴えてこられました。スタートから数年、タテワリなどの課題を抱えながらも一步一步前へ進んでいます。

品川区でも、13地区のうち2地区で「支え愛ほっとステーション」がモデル的に設置され、今後全地区への展開を想定しています。本気度が試されます。

豊島区に続き、ドラマのモデルとなった豊中市のCSWを訪ね、さらに調査を深めていきたいと思えます。



## 熱中症に注意!

### 高温多湿を避け、こまめな水分補給を!

東京消防庁の統計によると、熱中症は梅雨明け後の気温が高い日に多く発生しています。これは身体がまだ暑さに慣れていないためだそうです。また、気温が高くなくても湿度が高い室内において熱中症にかかり救急搬送された例も報告されています。しっかりと対策をして熱中症を防ぎましょう!

#### 高温・多湿・直射日光を避ける!

- 窓を開けて通気を保ったり、エアコンを利用して室内温度を調整しましょう。
- 温度計や湿度計を設置して、こまめに室内の温・湿度を確認しましょう。

#### 水分補給は計画的に、こまめに!

- のどが渇く前に水分補給をしましょう。
- のどが渇いたと感じていなくても意識的に水分を摂取しましょう。

「未完の憲法」は、憲法の平和主義が国際社会でどんな役割を果たせるか、と発想を転換します。九条によって、武力行使による国際社会への貢献はありえない、武器を使わずにできる貢献とは何か。平和構築のための非戦闘的な介入を積極的に進めることで、平和主義が国際社会で体現される。ここで、「米国は核兵器のない世界を追求する」とスピーチしノーベル平和賞を受賞したオバマ大統領が、その後それらに値する仕事ができていること、日本は東アジアで非核地帯を構想し、大統領を巻き込みながら、国際社会で率先行動をとるべき、と訴えます。解釈変更の是非と平和への日本の役割：本書はテーマを考へる上で、格好の教科書となるだろう、と締めくくっています。

## 【議会報告】委員会の構成が変わりました

品川区議会には、5つの常任委員会（総務、区民、厚生、建設、文教）と2つの特別委員会があり、1年毎に構成メンバーが決められます。私は、前期、文教委員長でしたが、新たに建設委員長を担うことになりました。建設委員会は、都市計画・開発、建築、土木、防災、道路、公園、交通、住宅、環境、清掃と最も守備範囲の広い委員会です。また、特別委員会では、行財政改革特別委員会に所属します。公有地と施設、契約（入札）、基金について調査・議論を行う予定です。

## 私の本棚

### 書評「未完の憲法」

私たちが目指す平和とは何か

(姜尚中/月刊・潮5月号)

憲法をめぐる話題が多い昨今です。この本を読まずして、憲法について語るな。憲法を通じて、国家の本質について掘り下げた議論をする名著」と佐藤優氏が評する「未完の憲法」(潮出版社)は、奥平康弘氏と木村草太氏の対談集です。本著を評論しながら、姜氏の見解が述べられています。

安倍総理は、96条で定められている憲法改正の要件を、三分の二以上から二分の一以上の国会議員の発議へと変えようとしたが、断念。そして、今、解釈を変えることによって改憲しようとしています。これに対し、歴代の「法の番人」内閣法制局長官が続々と警鐘を鳴らす、異常な事態となっています。彼らが何度も繰り返してきた解釈・議論を否定し、簡単に解釈改憲を進めてよいはずがない、ここまで憲法が邪険に扱われているのは、戦後初めてではないだろうか、と評者も断じます。